



総務省に中核市の指定を求め申し出

8月7日、後藤市長が総務省を訪問し、石田真敏総務大臣に中核市の指定を求める申し出を行いました。今後、閣議決定を経て、中核市の指定に関する政令が公布されると、中核市への移行が決定となります。

中核市とは、規模や能力などが比較的大きい人口20万人

以上の市(政令指定都市は除く)で、できる限り市民の近くで行政を行えるよう事務権限を強化した市のこと。指定されると、府が担っている保健所の運営などの事務が市で行えるようになります。

中核市移行の流れや移行に向けて行った取り組みはホームページで確認できます。



石田総務大臣(右)に申出書を渡す後藤市長

中核市移行準備室(☎6155・5782 ①63368・7343)

教育委員の選任

大谷佐知子教育委員の任期満了による退任に伴い、市議会の同意を得て、8月12日に和の田光代さんが教育委員に就任しました。任期は4年です。



和田光代さん

市議会7月定例会で可決されました

7月11日～8月2日に開催された市議会7月定例会で可決された主な内容をお知らせします。

● 予算案件

がん検診事業(胃がん検診胃内視鏡検査)、高齢者フレイル等予防推進事業、不妊治療費助成事業、産婦歯科健診事業、病児・病後児保育事業、児童発達支援事業、北部消防庁舎等複合施設建設工事設計業務(令和元年度～2年度)などが可決されました。

● いじめに関する予算(追加提案分)

いじめの相談対応などに特化した臨床心理士の新規配置

に162万円、学校現場での指導体制強化のためのいじめ対応支援員の新規配置、いじめを早期把握するための(仮称)こども SOS カードの導入に864万円、学校現場での指導体制強化のためのスクールソーシャルワーカーの配置時間の拡充に1687万円が可決されました。

審議内容は10月1日発行の市議会たよりに掲載されます。

No.49

市長コラム

こもれび通り

後藤圭二



あの時からの50年

先日、自宅を整理していたら、懐かしい本が出てきました。「釣り堀のヘラブナ釣り」。中学生の頃の愛読書です。当時、近所の釣り堀に通い詰めていた私は、著者の小川魚遊さんに手紙で質問を送るほど、ヘラブナ釣りに夢中でした。

数年後大学へと進学し、東京で一人暮らしを始めた私は、ある時この本の舞台となった池がほど近いことを知りました。訪ねてみると、そこには本の表紙と同じ池が。気持ちを押さえつつ、「ここは小川魚遊さんの」と釣り堀の管理人さんに聞くと、「もうお年だけど、今もあの家にいらっしゃるから、寄っていったら」と、池全体を眺めるように建つ青い屋根の家を指さしてくれました。

憧れの師匠がすぐそこに、と胸が高鳴るも、私はそこから動くことができませんでした。あの時の質問に、丁寧な返事のはがきをもらってうれしかったこと、魚や海に魅せられ、その道を研究したいと上京したこと。伝えたいことはたくさんありましたが、あと一步、勇気が出ませんでした。

もし、小川さんと巡り合えていたら、どんな時間を過ごせたでしょうか。色あせた表紙を眺めながら、果たせなかった出会いへの後悔がじわじわと込み上げてきました。

近く、このバイブルを手に再訪するつもりです。学生時代に見た、あの光景に出会うことを期待しながら。